

公共施設検討シート

D 老人・障がい者 福祉施設

公共施設検討シート（H22年基準）

No.39

大分類	老人・障がい者福祉施設		中分類	老人福祉施設	
施設名	福祉センター百楽荘				
建設年度	S 48	経過年数	37年	面積（㎡）	2,393.52
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
○・無	68.5	3,459,450	16,536,000	-13,076,550	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
91,904	1,436	119,676	272,862	59,838	598,380
S60利用者数	33,870	H12利用者数	18,653	H22利用者数	12,715
類似施設	経田福祉センター				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 ・利用者数が減少している。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・施設を1箇所に集約することによってヒト・モノ・カネを集中させれば、より質の高いサービスが提供できる。 ・子どもと高齢者の交流など、世代を重ね合わせた機能集約・施設の複合化を図っていくべきである。 					
3. 施設の方向性					
維持		統合	○	廃止	
短期		中期	○	長期	
<p>①経田福祉センターを百楽荘に統合する。</p> <p>②耐震化に向けた対策を早急に進める。</p> <p>③市民ニーズに合った施設となるようハード面、ソフト面において見直しを行う。</p> <p>④小学校の統廃合に合わせて、機能集約・施設の複合化が可能か検討する。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、③、④⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 市民等が利用しやすい環境が整備されるとともに、施設の維持管理費や今後想定される更新等経費の削減が図られる。</p> <p>②⇒「安全・安心なまちづくり」 利用者が安心してサービスを受けることができる環境が整備される。</p>					
5. 施設見直しによる効果					
<p>経田福祉センターにおいて今後見込まれる更新等経費（修繕費除く）が不要となり、年間約320万円の見直し効果が生み出される。</p>					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.40

大分類	老人・障がい者福祉施設	中分類	老人福祉施設		
施設名	経田福祉センター				
建設年度	S52	経過年数	33年	面積（㎡）	512.00
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
○・無	66.6	1,372,800	8,464,000	-7,091,200	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
19,648	307	25,600	38,912	12,800	128,000
S60利用者数	14,681	H12利用者数	6,791	H22利用者数	5,327
類似施設	福祉センター百楽荘				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 ・利用者数が減少している。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・施設を1箇所に集約することによってヒト・モノ・カネを集中させれば、より質の高いサービスが提供できる。 ・子どもと高齢者の交流など、世代を重ね合わせた機能集約・施設の複合化を図っていくべきである。 					
3. 施設の方向性					
維持		統合	○	廃止	
短期		中期	○	長期	
①経田福祉センターを百楽荘に統合する。					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>市民等が利用しやすい環境が整備されるとともに、施設の維持管理費や今後想定される更新等経費の削減が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					
<p>経田福祉センターにおいて今後見込まれる更新等経費（修繕費除く）が不要となり、年間約320万円の見直し効果が生み出される。</p>					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.41

大分類	老人・障がい者福祉施設	中分類	老人福祉施設		
施設名	老人趣味の家				
建設年度	H元	経過年数	21年	面積（㎡）	215.66
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ 無	67.0	0	440,861	-440,861	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
8,256	129	0	24,585	5,392	53,915
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—
類似施設	—				
1. 施設が抱える課題					
<p>・主に高齢者向けの陶芸教室の場として利用されているが、利用頻度は月2回～4回程度であり、陶芸教室の日以外は休館となっている。</p>					
2. 委員会での意見					
3. 施設の方向性					
維持		統合		廃止	○
短期	○	中期		長期	
<p>①利用者等が限定的であることから、当該施設は廃止するが、その他の施設において同様の事業が実施可能かどうか検討する。</p> <p>②跡地については、民間への貸与や譲渡など有効活用を図る。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 施設の維持管理費や今後想定される更新等経費の削減が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					
<p>老人趣味の家において今後見込まれる更新等経費が不要となり、年間約140万円の見直し効果が生み出される。</p>					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.42

大分類	老人・障がい者福祉施設	中分類	老人福祉施設		
施設名	片貝高齢者ふれあいの家				
建設年度	S 26	経過年数	59年	面積 (㎡)	214.79
耐震化の必要性 (一部)	老朽化比率 (%)	H22維持管理運営経費 (円)			
		収入A	支出B	収支差額C (A-B)	
(有)・無	73.2	576,000	1,085,805	-509,805	
修繕費 D (千円)	単年修繕費 E (千円)	耐震補強工事費 F (千円)	中規模改修費 G (千円)	解体工事費 H (千円)	改築工事費 I (千円)
8,256	129	9,747	16,324	5,370	53,698
H17利用者数	3,030	H19利用者数	3,060	H22利用者数	2,880
類似施設	経田高齢者ふれあいの家				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 ・利用者が限定的である。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・地元での管理も視野に入れながら検討を進めていくべきである。 					
3. 施設の方向性					
維持		統合		廃止	○
短期	○	中期		長期	
<p>①利用者が限定的であり、また、老朽化が進み耐震化もされていない施設であることから、当該施設は廃止する。</p> <p>②地元として施設の存続を希望する場合は、地元において管理運営することを前提に地元と協議を行う。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 施設の維持管理費や今後想定される更新等経費の削減が図られる。</p> <p>①⇒「安全・安心なまちづくり」 老朽化が進み耐震化もされていない施設を利用することがなくなるため、利用者に対する危険性が排除される。</p>					
5. 施設見直しによる効果					
<p>片貝ふれあいの家において今後見込まれる更新等経費（修繕費除く）が不要となり、年間約130万円の見直し効果が生み出される。</p>					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.43

大分類	老人・障がい者福祉施設	中分類	老人福祉施設		
施設名	経田高齢者ふれあいの家				
建設年度	S46	経過年数	39年	面積 (㎡)	85.94
耐震化の必要性	老朽化比率 (%)	H22維持管理運営経費 (円)			
		収入A	支出B	収支差額C (A-B)	
○・無	88.2	0	75,255	-75,255	
修繕費 D (千円)	単年修繕費 E (千円)	耐震補強工事費 F (千円)	中規模改修費 G (千円)	解体工事費 H (千円)	改築工事費 I (千円)
3,328	52	4,297	9,798	2,149	21,485
H17利用者数	165	H19利用者数	960	H22利用者数	883
類似施設	片貝高齢者ふれあいの家				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 ・利用者が限定的である。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・地元での管理も視野に入れながら検討を進めていくべきである。 					
3. 施設の方向性					
維持		統合		廃止	○
短期	○	中期		長期	
<p>①利用者が限定的であり、また、老朽化が進み耐震化もされていない施設であることから、当該施設は廃止する。</p> <p>②地元として施設の存続を希望する場合は、地元において管理運営することを前提に地元と協議を行う。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 施設の維持管理費や今後想定される更新等経費の削減が図られる。</p> <p>①⇒「安全・安心なまちづくり」 老朽化が進み耐震化もされていない施設を利用することがなくなるため、利用者に対する危険性が排除される。</p>					
5. 施設見直しによる効果					
<p>経田ふれあいの家において今後見込まれる更新等経費（修繕費除く）が不要となり、年間約60万円の見直し効果が生み出される。</p>					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.44

大分類	老人・障がい者福祉施設	中分類	障がい者福祉施設		
施設名	魚津市障害者交流センター				
建設年度	H15	経過年数	7年	面積（㎡）	338.24
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ 無	36.6	0	3,500,000	-3,500,000	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
12,992	203	0	26,586	8,457	84,560
H18利用者数	9,072	H20利用者数	9,937	H22利用者数	8,666
類似施設	—				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が減少傾向にある。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズを的確に把握し、利用者増を図っていく必要がある。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ②利用者のニーズを的確に把握し、利用者の増加を図る。					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等を行うとともに、利用者増に向けた対策を行うことで、持続的な行財政経営が図られる。					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

Ⅴ 社会教育・文化施設

公共施設検討シート（H22年基準）

No.45

大分類	社会教育・文化施設	中分類	公民館		
施設名	大町公民館				
建設年度	S56	経過年数	29年	面積（㎡）	1,054.84
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ （無）	56.7	0	8,235,425	-8,235,425	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
40,512	633	52,742	80,168	26,371	263,710
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—
類似施設	—				
1. 施設が抱える課題					
2. 委員会での意見					
<p>・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。</p>					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期	○	長期	
<p>①当面維持していくこととするが、小学校の統廃合に合わせて機能集約を検討する。 ②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.46

大分類	社会教育・文化施設		中分類	公民館		
施設名	村木公民館					
建設年度	S53	経過年数	32年	面積（㎡）	724.62	
耐震化の必要性 （一部）	老朽化比率 （%）	H22維持管理運営経費（円）				
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）		
(有)・無	61.5	0	6,913,612	-6,913,612		
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）	
27,840	435	34,925	55,072	18,116	181,155	
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—	
類似施設	—					
1. 施設が抱える課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 						
2. 委員会での意見						
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。 						
3. 施設の方向性						
維持	○	統合		廃止		
短期		中期	○	長期		
<p>①当面維持していくこととするが、小学校の統廃合に合わせて機能集約を検討する。 ②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ③当面の間利用することから、耐震化に向けた対策を早急に進める。</p>						
4. 市の目指すべき姿との関わり						
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>						
5. 施設見直しによる効果						

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.47

大分類	社会教育・文化施設	中分類	公民館		
施設名	下中島公民館				
建設年度	S 58	経過年数	27年	面積（㎡）	504.90
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ （無）	68.0	0	7,904,424	-7,904,424	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
19,392	303	0	57,558	12,623	126,225
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—
類似施設	住吉団地集会場				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期	○	長期	
①当面維持していくこととするが、小学校の統廃合に合わせて機能集約を検討する。 ②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.48

大分類	社会教育・文化施設		中分類	公民館		
施設名	上中島公民館					
建設年度	S 48	経過年数	37年	面積（㎡）	383.99	
耐震化の必要性 （一部）	老朽化比率 （％）	H22維持管理運営経費（円）				
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）		
①有・無	74.2	0	6,671,678	-6,671,678		
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）	
14,720	230	18,330	43,776	9,600	95,998	
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—	
類似施設	上中島多目的交流センター					
1. 施設が抱える課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 ・同地域内に類似施設がある。 						
2. 委員会での意見						
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。 						
3. 施設の方向性						
維持		統合	○	廃止		
短期		中期	○	長期		
<p>①上中島公民館については老朽化が進み耐震化もなされていないこと、また、同地域内に類似施設があることから、上中島多目的交流センターへ公民館機能を統合する。</p> <p>②跡地の有効活用を図る。</p>						
4. 市の目指すべき姿との関わり						
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>						
5. 施設見直しによる効果						
<p>公民館機能を統合することにより、上中島公民館において今後見込まれる更新等経費（修繕費除く）が不要になることから年間約260万円の見直し効果が生み出される。</p> <p>※地元との協議が必要であり、廃止時期が不明確であることから、修繕費は見直し効果の対象としないこととする。</p>						

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.49

大分類	社会教育・文化施設	中分類	公民館		
施設名	上野方公民館				
建設年度	S50	経過年数	35年	面積（㎡）	529.11
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
(有)・無	69.2	0	7,470,159	-7,470,159	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
20,288	317	26,456	40,212	13,228	132,278
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—
類似施設	上野方市営住宅集会場				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期	○	長期	
<p>①当面維持していくこととするが、小学校の統廃合に合わせて機能集約を検討する。</p> <p>②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。</p> <p>③当面の間利用することから、耐震化に向けた対策を早急に進める。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.50

大分類	社会教育・文化施設		中分類	公民館		
施設名	本江公民館					
建設年度	S54	経過年数	31年	面積（㎡）	823.40	
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）				
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）		
①有・無	61.9	0	7,620,219	-7,620,219		
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）	
31,616	494	41,170	62,578	20,585	205,850	
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—	
類似施設	—					
1. 施設が抱える課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 						
2. 委員会での意見						
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。 						
3. 施設の方向性						
維持	○	統合		廃止		
短期		中期	○	長期		
<p>①当面維持していくこととするが、小学校の統廃合に合わせて機能集約を検討する。 ②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ③当面の間利用することから、耐震化に向けた対策を早急に進める。</p>						
4. 市の目指すべき姿との関わり						
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>						
5. 施設見直しによる効果						

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.51

大分類	社会教育・文化施設	中分類	公民館		
施設名	片貝公民館				
建設年度	S52	経過年数	33年	面積（㎡）	618.76
耐震化の必要性 （一部）	老朽化比率 （%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
(有)・無	64.8	0	6,626,441	-6,626,441	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
23,744	371	29,428	47,024	15,469	154,690
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—
類似施設	平沢コミュニティ施設 東蔵農村集落センター				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期	○	長期	
<p>①当面維持していくこととするが、小学校の統廃合に合わせて機能集約を検討する。</p> <p>②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。</p> <p>③当面の間利用することから、耐震化に向けた対策を早急に進める。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.52

大分類	社会教育・文化施設	中分類	公民館		
施設名	加積公民館				
建設年度	H12	経過年数	10年	面積（㎡）	164.08
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ （無）	33.6	0	11,009,162	-11,009,162	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
6,272	98	0	12,470	4,102	41,020
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—
類似施設	農村環境改善センター 吉島団地集会場 六郎丸市営住宅集会場				
1. 施設が抱える課題					
※農村環境改善センターと一体的な施設である。					
2. 委員会での意見					
・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.53

大分類	社会教育・文化施設		中分類	公民館		
施設名	道下公民館					
建設年度	S 63	経過年数	22年	面積 (㎡)	843.76	
耐震化の必要性	老朽化比率 (%)	H22維持管理運営経費 (円)				
		収入A	支出B	収支差額C (A-B)		
有・ 無	59.3	0	7,996,049	-7,996,049		
修繕費 D (千円)	単年修繕費 E (千円)	耐震補強工事費 F (千円)	中規模改修費 G (千円)	解体工事費 H (千円)	改築工事費 I (千円)	
32,384	506	0	96,189	21,094	210,940	
H22平均稼働率	—	最大稼働率 (月)	—	最小稼働率 (月)	—	
類似施設	小川田団地集会場 青島団地集会場 道下市営住宅集会場					
1. 施設が抱える課題						
2. 委員会での意見						
・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。						
3. 施設の方向性						
維持	○	統合		廃止		
短期		中期	○	長期		
①当面維持していくこととするが、小学校の統廃合に合わせて機能集約を検討する。 ②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。						
4. 市の目指すべき姿との関わり						
①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。						
5. 施設見直しによる効果						

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.54

大分類	社会教育・文化施設	中分類	公民館		
施設名	経田公民館				
建設年度	S57	経過年数	28年	面積（㎡）	945.29
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ （無）	68.4	0	6,964,928	-6,964,928	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
36,288	567	0	107,763	23,632	236,323
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—
類似施設	天王団地集会場 西川原団地集会場 川の瀬市営住宅集会場				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期	○	長期	
<p>①当面維持していくこととするが、小学校の統廃合に合わせて機能集約を検討する。</p> <p>②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.55

大分類	社会教育・文化施設		中分類	公民館		
施設名	天神公民館					
建設年度	S55	経過年数	30年	面積（㎡）	1,047.34	
耐震化の必要性 （一部）	老朽化比率 （%）	H22維持管理運営経費（円）				
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）		
○・無	35.3	0	7,048,358	-7,048,358		
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）	
40,256	629	16,800	79,598	26,184	261,835	
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—	
類似施設	—					
1. 施設が抱える課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 						
2. 委員会での意見						
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。 						
3. 施設の方向性						
維持	○	統合		廃止		
短期		中期		長期	○	
①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ②耐震化に向けた対策を早急に進める。						
4. 市の目指すべき姿との関わり						
①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。						
5. 施設見直しによる効果						

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.56

大分類	社会教育・文化施設	中分類	公民館		
施設名	西布施公民館				
建設年度	S51	経過年数	34年	面積（㎡）	349.30
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
○・無	66.7	0	6,629,551	-6,629,551	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
13,440	210	17,465	26,546	8,733	87,325
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—
類似施設	黒沢農村集落センター				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期	○	長期	
<p>①当面維持していくこととするが、小学校の統廃合に合わせて機能集約を検討する。</p> <p>②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。</p> <p>③当面の間利用することから、耐震化に向けた対策を早急に進める。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.57

大分類	社会教育・文化施設	中分類	公民館		
施設名	松倉公民館・生活改善センター				
建設年度	S47	経過年数	38年	面積（㎡）	449.98
耐震化の必要性 （一部）	老朽化比率 （％）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
○・無	72.1	0	6,956,581	-6,956,581	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
17,280	270	22,079	48,785	11,250	112,495
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—
類似施設	北山農村集落センター 金山谷郷土文化保存伝習館 松倉農山村文化交流館				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の核であり、各地域のなかで重要な役割を担っている施設であるため、見直しの対象とはし難い面もあるが、施設の配置や機能の集約化などは考えていく必要がある。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期	○	長期	
<p>①当面維持していくこととするが、小学校の統廃合に合わせて機能集約を検討する。</p> <p>②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。</p> <p>③当面の間利用することから、耐震化に向けた対策を早急に進める。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.58

大分類	社会教育・文化施設		中分類	図書館		
施設名	図書館					
建設年度	H16	経過年数	6年	面積（㎡）	2,789.04	
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）				
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）		
有・ （無）	19.9	229,118	77,991,389	-77,762,271		
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）	
107,072	1,673	0	211,968	69,726	697,260	
S60登録者数	6,963	H12登録者数	7,283	H22登録者数	18,069	
類似施設	—					
1. 施設が抱える課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・市直営で管理している。 						
2. 委員会での意見						
<ul style="list-style-type: none"> ・利用率が高く、施設の的にも新しいことから、今回の検討には直接関係しないと思われる。 ・ハード的には問題ないが、市民ニーズに沿った施設のマネジメントは考える必要がある。 						
3. 施設の方向性						
維持	○	統合		廃止		
短期		中期		長期	○	
<p>①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。</p> <p>②民間での管理運営を視野に入れながら、効率的・効果的な施設マネジメントを検討する。</p>						
4. 市の目指すべき姿との関わり						
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>						
5. 施設見直しによる効果						

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.59

大分類	社会教育・文化施設		中分類	博物館	
施設名	埋没林博物館				
建設年度	H 3	経過年数	19年	面積 (㎡)	3,663.77
耐震化の必要性	老朽化比率 (%)	H22維持管理運営経費 (円)			
		収入A	支出B	収支差額C (A-B)	
有・ 無	61.7	14,885,846	78,333,006	-63,447,160	
修繕費 D (千円)	単年修繕費 E (千円)	耐震補強工事費 F (千円)	中規模改修費 G (千円)	解体工事費 H (千円)	改築工事費 I (千円)
140,736	2,199	0	417,672	91,595	915,944
H4入館者数	142,158	H12入館者数	73,066	H22入館者数	39,668
類似施設	水族博物館、歴史民俗博物館				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数が大幅に減少している。 ・建築後20年以上経過しており、修繕や更新が必要な設備が増えている。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数が大幅に減少しているなかで、引き続き観光施設として活用していくのかどうか、今後の大きな方向性をしっかりと考えていく必要がある。 ・観光資源として活用していくのであれば、入館者数を増やすような工夫が必要である。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
<p>①当面は維持していくこととするが、施設の更新時期を見据えながら、水族館や歴史民俗博物館と一体的な施設配置となるよう検討する。</p> <p>②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.60

大分類	社会教育・文化施設		中分類	博物館														
施設名	水族博物館																	
建設年度	S 55	経過年数	30年	面積 (㎡)	4,114.08													
耐震化の必要性	老朽化比率 (%)	H22維持管理運営経費 (円)																
		収入A	支出B	収支差額C (A-B)														
○・無	78.5	63,741,729	190,288,604	-126,546,875														
修繕費 D (千円)	単年修繕費 E (千円)	耐震補強工事費 F (千円)	中規模改修費 G (千円)	解体工事費 H (千円)	改築工事費 I (千円)													
157,952	2,468	201,698	315,717	102,853	1,028,520													
S 60入館者数	211,971	H12入館者数	149,251	H22入館者数	134,377													
類似施設	埋没林博物館、歴史民俗博物館																	
1. 施設が抱える課題																		
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 ・入館者数が大幅に減少している。（リニューアル前） <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">【期間】</td> <td style="text-align: center;">【入館者数】</td> <td style="text-align: center;">【期間】</td> <td style="text-align: center;">【入館者数】</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">H25. 3. 16～3月末</td> <td style="text-align: right;">23,574人</td> <td style="text-align: center;">H24. 3. 16～3月末</td> <td style="text-align: right;">8,479人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">H25. 4月</td> <td style="text-align: right;">24,500人</td> <td style="text-align: center;">H24. 4月</td> <td style="text-align: right;">12,240人</td> </tr> </table>							【期間】	【入館者数】	【期間】	【入館者数】	H25. 3. 16～3月末	23,574人	H24. 3. 16～3月末	8,479人	H25. 4月	24,500人	H24. 4月	12,240人
【期間】	【入館者数】	【期間】	【入館者数】															
H25. 3. 16～3月末	23,574人	H24. 3. 16～3月末	8,479人															
H25. 4月	24,500人	H24. 4月	12,240人															
2. 委員会での意見																		
<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数が大幅に減少しているなかで、引き続き観光施設として活用していくのかどうか、今後の大きな方向性をしっかりと考えていく必要がある。 ・観光資源として活用していくのであれば、入館者数を増やすような工夫が必要である。 																		
3. 施設の方向性																		
維持	○	統合		廃止														
短期		中期		長期	○													
<p>①当面は維持していくこととするが、施設の更新時期を見据えながら、埋没林博物館や歴史民俗博物館と一体的な施設配置となるよう検討する。</p> <p>②観光機能だけでなく、学術機関としての機能をさらに高めることで、入館者の増加を図る。（他の類似施設との棲み分けを図るため、学術機能に特化する選択肢も考えられる。）</p> <p>③長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。</p>																		
4. 市の目指すべき姿との関わり																		
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>																		
5. 施設見直しによる効果																		

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.61-1

大分類	社会教育・文化施設		中分類	博物館	
施設名	歴史民俗博物館				
建設年度	S47～S53・S62	経過年数	38～32年	面積（㎡）	715.82
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
○・無	63.6	0	9,636,579	-9,636,579	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
27,520	430	35,791	70,103	17,896	178,955
H2入館者数	11,508	H12入館者数	1,881	H22入館者数	4,495
類似施設	埋没林博物館、水族博物館				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 ・利用者数が低い水準となっている。（H13から入館料無料にしたため、やや回復） 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の更新時期に合わせ、他の施設への集約や関連施設周辺への移転など利便性・効率性を考えた施設配置を検討していくべきである。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
<p>①当面は維持していくこととするが、施設の更新時期を見据えながら、水族館や埋没林博物館と一体的な施設配置となるよう検討する。</p> <p>②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。</p> <p>③耐震化に向けた対策を早急に進める。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.61-2

大分類	社会教育・文化施設	中分類	博物館		
施設名	吉田記念郷土館				
建設年度	S 62	経過年数	23年	面積 (㎡)	1,670.82
耐震化の必要性	老朽化比率 (%)	H22維持管理運営経費 (円)			
		収入A	支出B	収支差額C (A-B)	
有・ 無	63.9	—	—	—	
修繕費 D (千円)	単年修繕費 E (千円)	耐震補強工事費 F (千円)	中規模改修費 G (千円)	解体工事費 H (千円)	改築工事費 I (千円)
64,128	1,002	0	190,473	41,771	417,705
H22平均稼働率	—	最大稼働率 (月)	—	最小稼働率 (月)	—
類似施設	埋没林博物館、水族博物館				
1. 施設が抱える課題					
2. 委員会での意見					
<p>・施設の更新時期に合わせ、他の施設への集約や関連施設周辺への移転など利便性・効率性を考えた施設配置を検討していくべきである。</p>					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
<p>①当面は維持していくこととするが、施設の更新時期を見据えながら、水族館や埋没林博物館と一体的な施設配置となるよう検討する。 ②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ③耐震化に向けた対策を早急に進める。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.62

大分類	社会教育・文化施設		中分類	文化ホール		
施設名	新川文化ホール（施設全体：12,797㎡、うち市分3,590㎡、うち共用：1,012㎡）					
建設年度	H 6	経過年数	16年	面積（㎡）	4,602（市＋共用）	
耐震化の必要性	老朽化比率（％）	H22維持管理運営経費（円）				
		収入A	支出B	収支差額C（A－B）		
有・ （無）	32.1	170,953	82,654,383	-82,483,430		
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）	
176,704	2,761	0	524,628	115,050	1,150,500	
H16利用料収入	13,628千円	H19利用料収入	15,704千円	H22利用料収入	22,293千円	
類似施設	新川学びの森天神山交流館					
1. 施設が抱える課題						
・ホールの設備機器などの修繕や更新が増えている。						
2. 委員会での意見						
・県との共同設置のため、市独自で施設のあり方を検討していくことは難しい。						
3. 施設の方向性						
維持	○	統合		廃止		
短期		中期		長期	○	
①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ②施設の更新時期を見据え、類似施設との機能集約を図る。						
4. 市の目指すべき姿との関わり						
①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。						
5. 施設見直しによる効果						

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.63

大分類	社会教育・文化施設	中分類	その他社会教育・文化施設		
施設名	新川学びの森天神山交流館				
建設年度	S55～H7	経過年数	30～15年	面積（㎡）	10,268.27
耐震化の必要性 （一部）	老朽化比率 （％）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
○有・無	67.7	615,191	48,864,140	-48,248,949	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
403,456	6,304	456,139	826,299	262,679	2,626,793
H14利用者数	19,313	H18利用者数	44,451	H22利用者数	42,723
類似施設	新川文化ホール				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・古い建物は建築後30年以上経過しており、老朽化が進んでいる。 ・一部の施設が旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 ・施設の維持管理運営費に対して利用料が安すぎる。 ・施設の稼働率が低い水準となっている。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・職業訓練センターや勤労青少年ホームが学びの森に集約されたように、他の施設も集約できないか検討していく必要がある。 ・コミュニティバスをうまく活用するなど、アクセス面を検討する必要がある。 ・施設の維持管理に見合う利用料とすべきである。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合	○	廃止	
短期		中期	○	長期	
<p>①老朽化が進み、耐震化の必要性もあることから、早急に残していくべき機能や廃止又は他の施設へ機能集約していくものを整理するとともに、年間の平均稼働率に見合った施設規模とするよう検討を行う。</p> <p>②施設の管理運営費に見合った利用料に見直す。</p> <p>③維持することとした建物については、耐震化に向けた対策を早急に進める。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.64

大分類	社会教育・文化施設	中分類	その他社会教育・文化施設		
施設名	埋蔵文化財調査室				
建設年度	H 8	経過年数	14年	面積（㎡）	238.90
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ （無）	49.5	927,000	1,324,527	-397,527	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
9,152	143	0	18,156	5,973	59,725
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—
類似施設	—				
1. 施設が抱える課題					
2. 委員会での意見					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
<p>①当面は維持していくこととするが、施設の更新時期を見据えながら、他の施設へ集約できないか検討する。</p> <p>②長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>計画的に施設の維持補修等が行われることによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

F スポーツ施設

公共施設検討シート（H22年基準）

No.65-1

大分類	スポーツ施設	中分類	体育館・アリーナ		
施設名	総合体育館				
建設年度	S 50	経過年数	35年	面積 (㎡)	4,582.60
耐震化の必要性	老朽化比率 (%)	H22維持管理運営経費 (円)			
		収入A	支出B	収支差額C (A-B)	
○・無	76.1	0	45,799,170	-45,799,170	
修繕費 D (千円)	単年修繕費 E (千円)	耐震補強工事費 F (千円)	中規模改修費 G (千円)	解体工事費 H (千円)	改築工事費 I (千円)
176,000	2,750	228,001	349,134	114,565	1,145,651
S 60利用者数	70,465	H12利用者数	46,880	H22利用者数	81,203
類似施設	テクノスポーツドーム				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 ・大、中体育室以外の稼働率が極めて低い。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の方向性を打ち出すためにも、耐震診断を行い耐震性を確認すべきである。 ・存廃については、市内にある体育館や小中学校の体育館の活用も視野に入れながら検討すべきである。 ・大、中体育室の利用度はかなり高いことから、その機能を廃止することは難しい。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期	○	中期		長期	
<p>①体育室の機能のみ維持していくこととするが、利便性・効率性が高まるよう施設の配置（類似施設との一体的配置）について検討する。</p> <p>②施設の管理運営費に見合った利用料に見直す。</p> <p>③現在の施設のまま維持していく場合は、耐震化に向けた対策を早急に進める。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 施設の一部機能廃止や再配置を行うことで管理運営費の削減が図られるとともに、施設の利用料を見直すことによって、持続的な行財政経営が図られる。</p> <p>③⇒「安全・安心なまちづくり」 利用者の安全が確保される。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.65-2

大分類	スポーツ施設	中分類	体育館・アリーナ		
施設名	温水プール				
建設年度	S53	経過年数	32年	面積（㎡）	2,151.36
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
①有・無	96.6	-	-	-	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
82,624	1,291	107,568	163,504	53,784	537,840
S60利用者数	62,890	H12利用者数	36,159	H22利用者数	44,868
類似施設	スポーツアカデミー				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進み、毎年、多額の補修費がかかっている。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 					
2. 委員会での意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校のプールの老朽化や小学校の統廃合に合わせて、既存の各小学校にあるプールの機能を、新たに造る温水プールに集約していけばいいと思う。 ・温水プールを新設する場合は、民間の力を十分活用して行くことを考える必要がある。 					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期	○	中期		長期	
<p>①まず、民間においてプールの整備・管理運営ができないのか検討する。</p> <p>②民間での整備ができない場合は、各小学校のプールについて、更新時期がきた段階で廃止することを前提に、温水プールの建替えを行う。</p> <p>③建替えを行う場所については、検討を行う必要がある。</p> <p>④老朽化が進み、旧耐震基準であること、また、補修もしづらく非効率であることから、早急に建替えを行う。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②、③⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 民間活力を活用することや、市で建替える場合においてもその維持管理が効率的・効果的に行われることから、持続的な行財政経営が図られる。</p> <p>④⇒「安全・安心なまちづくり」 利用者が安心してサービスを受けることができる環境が整備される。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.66

大分類	スポーツ施設	中分類	体育館・アリーナ		
施設名	テクノスポーツドーム				
建設年度	H 9	経過年数	13年	面積 (㎡)	12,153.89
耐震化の必要性	老朽化比率 (%)	H22維持管理運営経費 (円)			
		収入A	支出B	収支差額C (A-B)	
有・ 無	44.6	1,316,425	99,440,462	-98,124,037	
修繕費 D (千円)	単年修繕費 E (千円)	耐震補強工事費 F (千円)	中規模改修費 G (千円)	解体工事費 H (千円)	改築工事費 I (千円)
466,688	7,292	0	923,696	303,847	3,038,473
H13利用者数	221,957	H17利用者数	210,233	H22利用者数	257,519
類似施設	総合体育館				
1. 施設が抱える課題					
<p>・徐々に老朽化が進んできており、屋根や外壁などに修繕が必要な箇所が見られるようになってきたが、施設の形状が特殊であることから、今後、多額の維持補修経費が予想される。</p>					
2. 委員会での意見					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
<p>①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ②施設の管理運営費に見合った利用料に見直す。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等を行うとともに、施設の利用料を見直すことによって、持続的な行財政経営が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.67-1

大分類	スポーツ施設		中分類	運動公園		
施設名	桃山運動公園（陸上競技場等）					
建設年度	H3	経過年数	19年	面積（㎡）	2,616.49	
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）				
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）		
有・ （無）	63.3	0	66,717,216	-66,717,216		
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）	
100,480	1,570	0	294,407	65,412	654,123	
H13利用者数	10,935	H17利用者数	12,396	H22利用者数	14,830	
類似施設	吉田グラウンド					
1. 施設が抱える課題						
2. 委員会での意見						
3. 施設の方向性						
維持	○	統合		廃止		
短期		中期		長期	○	
①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ②施設の管理運営費に見合った利用料に見直す。						
4. 市の目指すべき姿との関わり						
①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等を行うとともに、施設の利用料を見直すことによって、持続的な行財政経営が図られる。						
5. 施設見直しによる効果						

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.67-2

大分類	スポーツ施設	中分類	運動公園		
施設名	桃山運動公園（野球場）				
建設年度	S62	経過年数	23年	面積（㎡）	1,663.57
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ （無）	66.6	0	736,536	-736,536	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
63,872	998	0	182,825	41,590	415,893
H13利用者数	7,737	H17利用者数	12,141	H22利用者数	21,299
類似施設	天神山野球場、早月川河川敷野球場				
1. 施設が抱える課題					
2. 委員会での意見					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ②施設の管理運営費に見合った利用料に見直す。					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等を行うとともに、施設の利用料を見直すことによって、持続的な行財政経営が図られる。					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.67-3

大分類	スポーツ施設	中分類	運動公園		
施設名	桃山運動公園（運動広場）				
建設年度	H 5	経過年数	17年	面積（㎡）	96.00
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ （無）	43.2	0	30,450	-30,450	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
3,712	58	0	10,944	2,400	24,000
H13利用者数	7,115	H17利用者数	6,067	H22利用者数	9,172
類似施設	吉田グラウンド、早月川河川敷運動場				
1. 施設が抱える課題					
2. 委員会での意見					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ②施設の管理運営費に見合った利用料に見直す。					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等を行うとともに、施設の利用料を見直すことによって、持続的な行財政経営が図られる。					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.67-4

大分類	スポーツ施設	中分類	運動公園		
施設名	桃山運動公園（テニスコートクラブハウス）				
建設年度	H 8	経過年数	14年	面積（㎡）	249.06
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ （無）	50.0	0	159,997	-159,997	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
9,536	149	0	18,928	6,227	62,265
H13利用者数	6,122	H17利用者数	6,590	H22利用者数	7,430
類似施設	ミラージュランドテニスコート				
1. 施設が抱える課題					
2. 委員会での意見					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ②施設の管理運営費に見合った利用料に見直す。					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等を行うとともに、施設の利用料を見直すことによって、持続的な行財政経営が図られる。					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.67-5

大分類	スポーツ施設	中分類	運動公園		
施設名	桃山運動公園（屋内グラウンド）				
建設年度	H16	経過年数	6年	面積（㎡）	1,636.78
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ （無）	12.8	0	275,054	-275,054	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
62,848	982	0	124,396	40,920	409,195
H16利用者数	7,310	H19利用者数	10,936	H22利用者数	14,787
類似施設	吉田グラウンド、早月川河川敷運動場				
1. 施設が抱える課題					
2. 委員会での意見					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。 ②施設の管理運営費に見合った利用料に見直す。					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
①、②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等を行うとともに、施設の利用料を見直すことによって、持続的な行財政経営が図られる。					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.67-6

大分類	スポーツ施設	中分類	運動公園		
施設名	桃山運動公園（芝生広場）				
建設年度	H11	経過年数	11年	面積（㎡）	147.04
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
有・ （無）	55.6	0	409,500	-409,500	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
5,632	88	0	11,176	3,676	36,761
H13利用者数	—	H17利用者数	—	H22利用者数	—
類似施設	吉田グラウンド、早月川河川敷運動場				
1. 施設が抱える課題					
2. 委員会での意見					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期		中期		長期	○
①長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
①⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等を行うことによって、持続的な行財政経営が図られる。					
5. 施設見直しによる効果					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.68

大分類	スポーツ施設	中分類	その他スポーツ施設		
施設名	魚津市弓道場				
建設年度	H 9	経過年数	13年	面積 (㎡)	196.87
耐震化の必要性	老朽化比率 (%)	H22維持管理運営経費 (円)			
		収入A	支出B	収支差額C (A-B)	
有・ (無)	39.0	—	—	—	
修繕費 D (千円)	単年修繕費 E (千円)	耐震補強工事費 F (千円)	中規模改修費 G (千円)	解体工事費 H (千円)	改築工事費 I (千円)
7,552	118	0	14,962	4,922	49,218
H22平均稼働率	—	最大稼働率 (月)	—	最小稼働率 (月)	—
類似施設	—				
1. 施設が抱える課題					
2. 委員会での意見					
3. 施設の方向性					
維持	○	統合		廃止	
短期	○	中期		長期	
①総合体育館やプールの方針を踏まえ、施設の存廃について検討する。 ②維持することとした場合は、長期的な視点に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図る。					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 計画的に施設の維持補修等を行うことによって、持続的な行財政経営が図られる。					
5. 施設見直しによる効果					
廃止とした場合、弓道場において今後見込まれる更新等経費（修繕費除く）が不要となり、年間約110万円の見直し効果が生み出される。					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.69

大分類	スポーツ施設	中分類	その他スポーツ施設		
施設名	市営吉田グラウンド（更衣室・便所）				
建設年度	S 39	経過年数	46年	面積（㎡）	102.50
耐震化の必要性	老朽化比率（%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
○・無	99.5	—	—	—	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
3,968	62	5,125	11,685	2,563	25,625
H22平均稼働率	—	最大稼働率（月）	—	最小稼働率（月）	—
類似施設	桃山運動公園（陸上競技場、運動広場）、早月川河川敷運動場				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる。 ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 					
2. 委員会での意見					
3. 施設の方向性					
維持		統合		廃止	○
短期	○	中期		長期	
<p>①総合体育館やプールの方針を踏まえ、施設の存廃について検討する。</p> <p>②グラウンドを維持していく場合においても、現在の利用状況を鑑み、施設の廃止を検討する。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>②⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」</p> <p>施設の維持管理費や今後想定される更新等経費の削減が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					
<p>吉田グラウンドにおいて今後見込まれる更新等経費（修繕費除く）が不要となり、年間約70万円の見直し効果が生み出される。</p>					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。

公共施設検討シート（H22年基準）

No.70

大分類	スポーツ施設	中分類	その他スポーツ施設		
施設名	天神山野球場（管理棟・便所棟）				
建設年度	H元	経過年数	21年	面積（㎡）	62.12
耐震化の必要性 （一部）	老朽化比率 （%）	H22維持管理運営経費（円）			
		収入A	支出B	収支差額C（A-B）	
○・無	66.2	0	4,879,000	-4,879,000	
修繕費 D（千円）	単年修繕費 E（千円）	耐震補強工事費 F（千円）	中規模改修費 G（千円）	解体工事費 H（千円）	改築工事費 I（千円）
2,368	37	660	6,581	1,553	15,530
H16利用者数	20,432	H19利用者数	23,905	H22利用者数	23,460
類似施設	桃山運動公園（野球場）、早月川河川敷野球場				
1. 施設が抱える課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・旧耐震基準により整備された施設であることから、耐震化が必要である。 ・市内及び近隣自治体に類似施設がある。 					
2. 委員会での意見					
3. 施設の方向性					
維持		統合		廃止	○
短期		中期	○	長期	
<p>①老朽化も進んできており、旧耐震基準で整備されていること、また、小中学校のグラウンドを含め、類似施設が市内外にあることから、当該施設は廃止する。</p>					
4. 市の目指すべき姿との関わり					
<p>①⇒「計画的・効率的な行財政経営の推進」 施設の維持管理費や今後想定される更新等経費の削減が図られる。</p>					
5. 施設見直しによる効果					
<p>天神山野球場において今後見込まれる更新等経費（修繕費除く）が不要となり、年間約40万円の見直し効果が生み出される。</p>					

※D～I（Eは除く）は、平成87年度までを試算の期間として算定。